

若年例PFOについての アンケート調査

2021.4.17報告

JCIC学会 調査担当理事 金成海

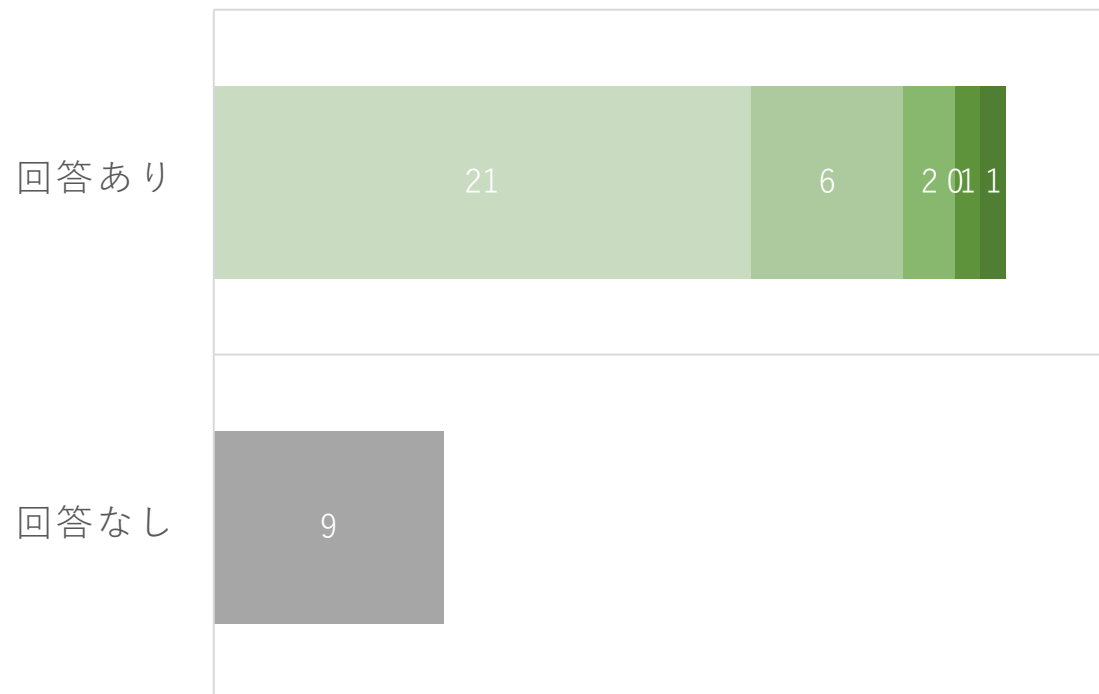
回答条件

- 2010年～2021年3月末。20歳未満。
- PFOを介する奇異性血栓による脳梗塞と診断。
- 今回対象の“PFO”には、解剖学的にスリット状の短絡のないものから、軽微な短絡を伴う「小さな二次孔ASD」までを含む。
- 施設あたり、JCIC、CVIT術者 各1名まで回答（同じ病院内のJCIC、CVITチームを別個に回収）。

回答数 (率)

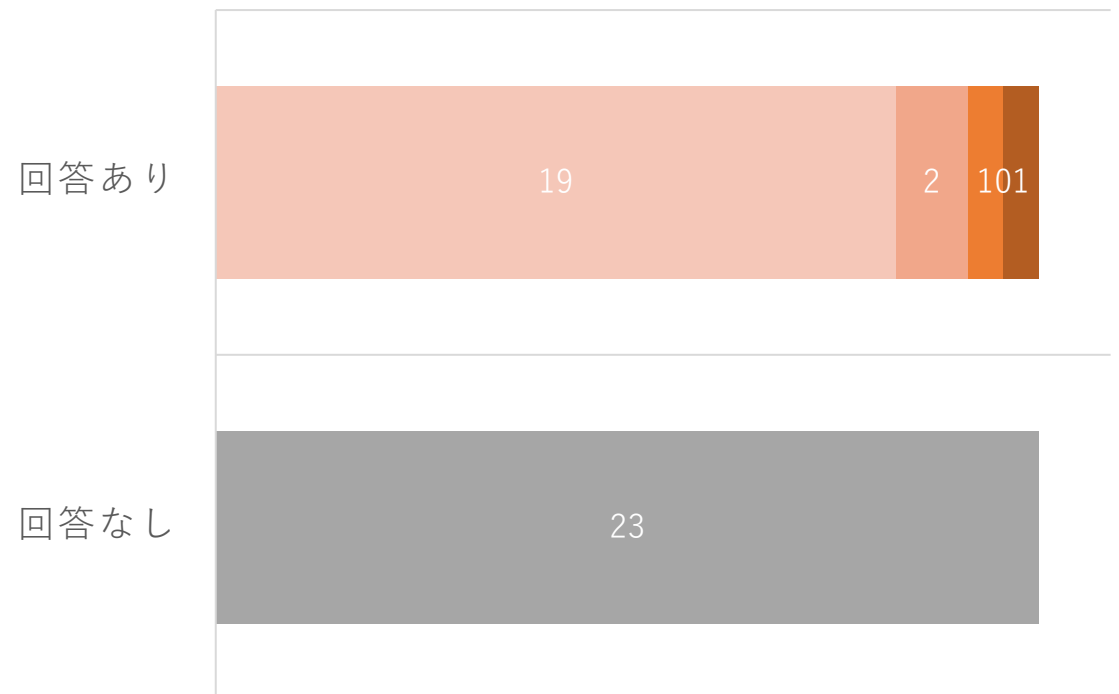
• JCIC施設

31/40 (77.5%)



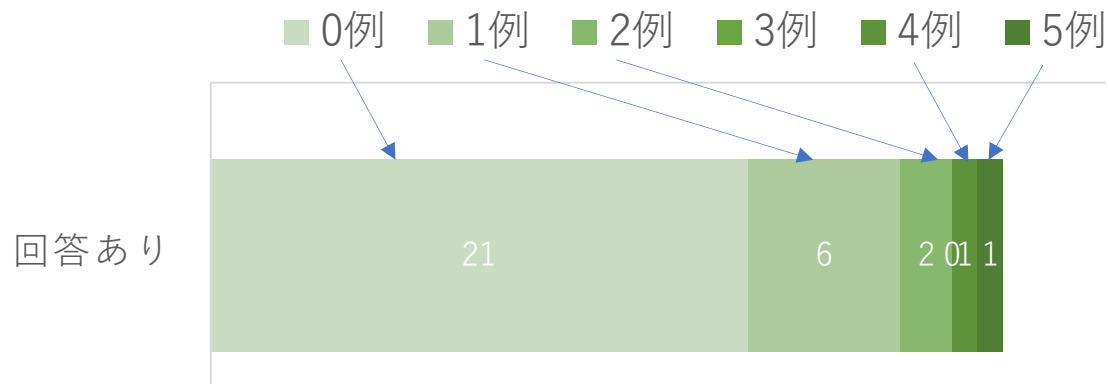
• CVIT施設

23/46 (50.0%)

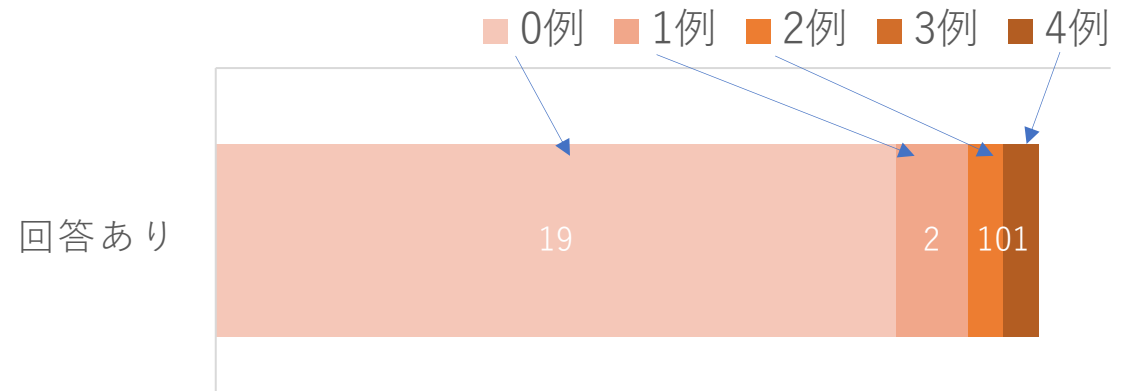


Q.1 2010年以降、20歳未満でPFOを介する奇異性血栓による脳梗塞と診断したご経験は？ **Q.2** その症例数は？

• JCIC施設

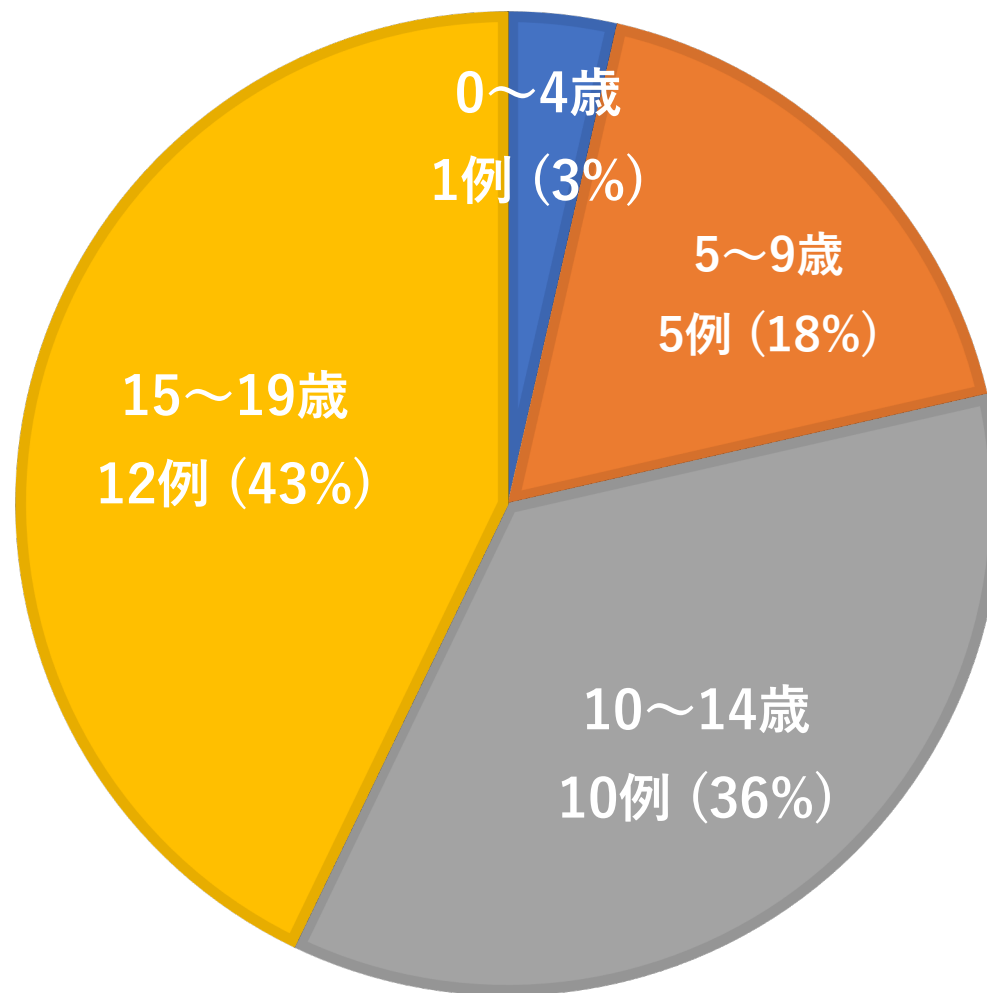


• CVIT施設

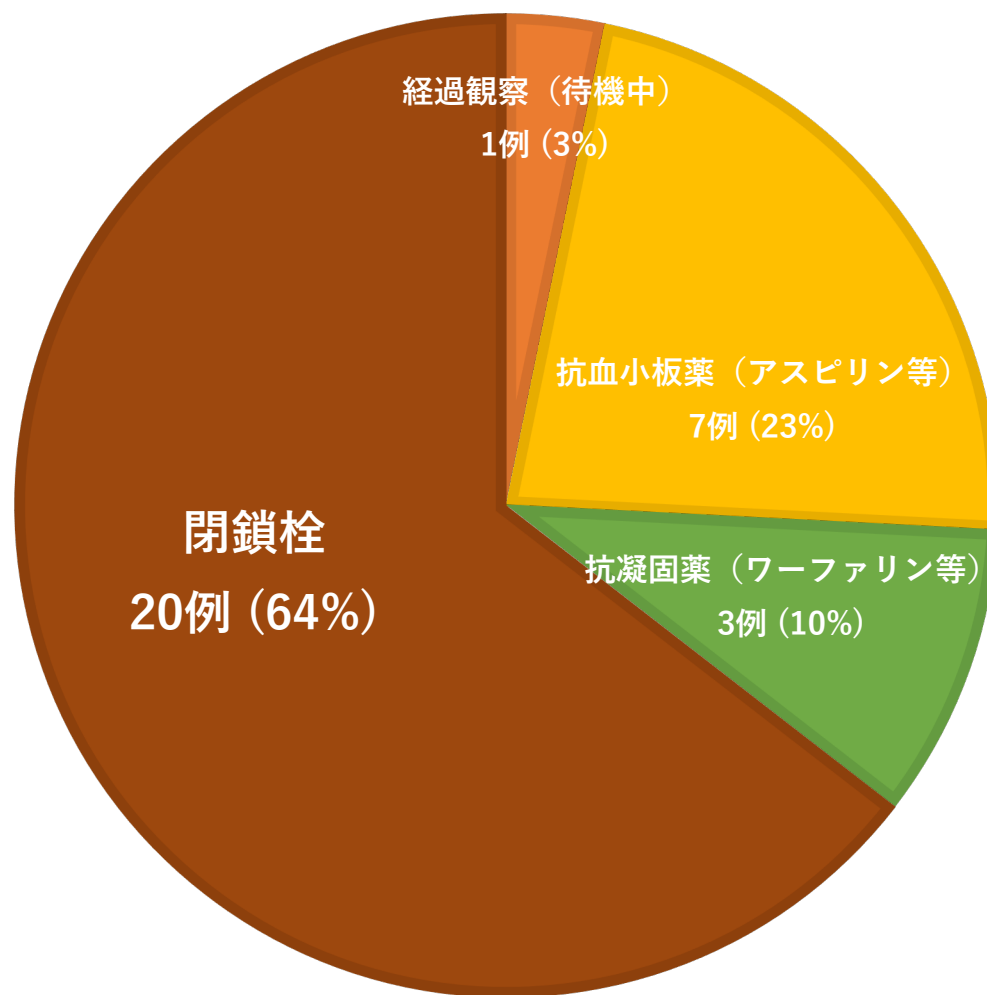


- 経験施設数 $10 + 4 = 14 / 54$ (25.9%)
- 約10年間で $19 + 8 = 27$ 症例

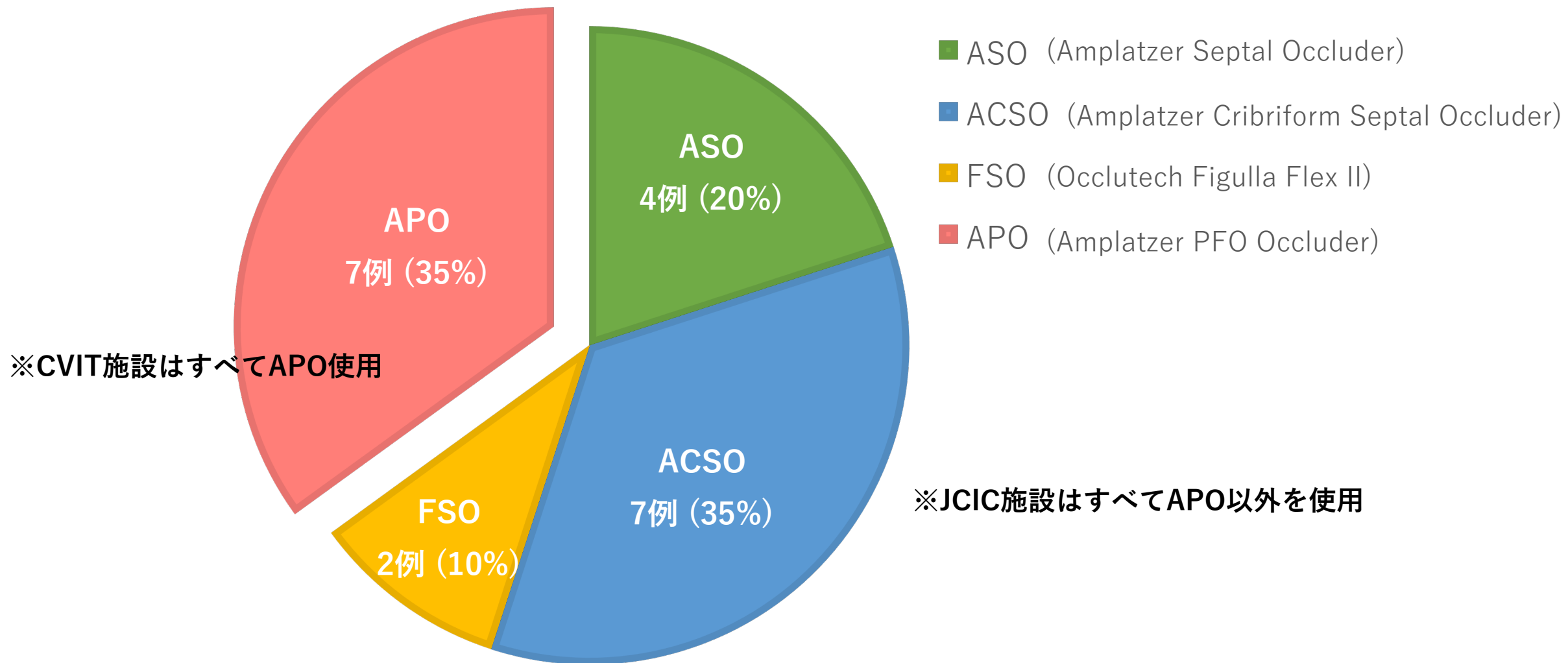
Q.3 症例の年齢分布



Q.4 主たる治療内容（複数回答あり）



Q.5 使用された閉鎖栓



自由記載（CVIT術者より）

- PFOの関与の疑われる脳塞栓症の二次予防のためのPFO閉鎖で、小児でも予防効果があるとのデータはあるのですか？RESPECT試験では18歳以上、CLOSE試験では16歳以上が対象になっており、この年代であれば、ACHD患者さんも、循環器内科へ振られる年齢であり、今のところのエビデンスではCVITの先生方による治療のみでも良いのではないかと思います。
- CVIT施設で義務付けられているように、JCICの施設でも脳卒中専門医とのブレインハーフトチームを構築して、その適応をしっかりと吟味することが必要と考えます。
- CVITの委員会でもJCIC術者の先生にもPFOデバイスをという点、話し合われております。
- お疲れ様でした。

自由記載（JCIC術者より）

- 手技としてはASD閉鎖術と変わらないのに日循の専門医を取得しないとPFO閉鎖術の術者になれないので小児循環器科医にとってはハードルが高いと思います。
- 脳梗塞ではなく奇異性腎梗塞の診断で紹介され、ASOで閉鎖した15歳例が1例います。
- 40代が一人、ASOで閉鎖しました。
- 他に成人のPFO、奇異性脳梗塞に対するカテーテル治療が3例あります。
- JCICのASD認定術者がPFO deviceを使用できるようになれば良いと賛同いたします。
- ここ3-4年は原因不明の脳梗塞例は全例TEEを施行するようになりましたが、それ以前のものは未施行のものが含まれます。TTEでPFOを指摘できない症例も複数経験しており、全例検査施行した場合には症例数の増加が予想されます。小児例では、成人の動脈硬化等の生活習慣病関連の割合が極めて低いため、小児脳梗塞患者に占めるPFOを含めた奇異性塞栓関連の割合は成人に比して高いことが推定されると考えています。
- 脳梗塞は明らかではないけれど、右左短絡を認める症例もあるように思います。また、待機中の症例もおられます。

ご協力、誠にありがとうございました。